第２回　南関版コンパクトシティ構想策定委員会
議事録

■　**日時**：令和４年１月 26 日（水）10：00～12：20
■　**場所**：南関町役場　2F　議員控室
■　**参加者**：（敬称略）
【委員】末竹、上田、北原、立山、中村、猿渡、山下、西田
【委員長】西郷
【事務局】坂田、橋本、大森、西山（まちづくり課）
【事務局支援】ランドブレイン：山田、工藤、吉山［記］
■　**内容**：
1.　開会
2.　議事
①　南関町地域未来構想策定ワークショップ開催報告
②　南関町地域未来構想（案）について
③　その他
3.　次回の日程について
4.　閉会

（以下議事録、敬称略）

1. 開会

2. 議事

● **全体構想（案）**

・（委員）他自治体との比較をあわせて見ると、農業と自然豊かなまちというよりは、工業のまちとして仕上がっていることがわかった。昼間人口が多く、働く人はいるのに住んでいないということは大きな課題で、構想の大きなポイントかと思う。今住んでいない人の理由を突き詰めて、その改善を図っていくことにより、今住んでいる人の生活向上にもつながると思うので、重要施策として位置付けてほしい。
－（事務局）各校区がそれぞれ別の市とつながっている。隣接する市の端に住むくらいなら南関町に住んではどうか、という投げかけができるようになるとよい。色々なまちに行きやすく便利であるという特長を、今住んでいる人が実感していることが重要である。

・（委員）周辺 4 市とのつながりについて。4 市にあって南関町にないものは病院と大型店舗である。これらがあると住んでくれる人は増えると思う。すぐに持ってくることはできない機能だが、アイデアとして示しておきたい。
－（委員長）南関町には誘致できずとも、他市の機能を利活用しようという発想かと思う。
－（事務局）多くの自治体で出てくる意見である。早期実現先導事業に、新たな通院施策を位置付けている。庁内委員会で遠隔診療システムの構築を提案したと

ころ、まずは5Gの導入と連携先の病院の発掘を、とのことであった。南関町の医療機能の1つとして考えていけるとよい。
  - （委員）今後は沿岸道路が発達する可能性もあるが、そこに南関町は含まれていない。南関町に外から人が来る流れとして、道路はいまだに重要な要素である。農業や工業の発展にもつなげていけるとよい。すぐにはできないことでも、青写真を描くことが大事だと思う。

・（委員）大型店舗と病院よりも住居の充実が必要と思う。遠隔診療の推進についていうと、光回線は比較的早期に導入された。
  - （委員）医療はアクセスしやすさが重要である。夜間でも救急医療が受けられる体制の整備など、結局は人がそろっていないとできない。A-life では未病者を要介護にしないことを重視しており、更に ICT が使いこなせる高齢者を育てることが課題であると考えている。キャッシュレスのスマートコンビニの設置など、高齢者も技術革新についていき、その恩恵を受けられるとよい。
  - （委員）病院などの施設よりも、オンライン診療の充実や、高齢者が機能を使いこなせるようにアドバイスできる人の充実などを図ることで、住みよいまちづくりにつなげたい。
  - （委員長）全体構想の実現には情報基盤の強化が重要かと思う。

・（委員）人が減っていく等の問題点は挙げられているが、その要因をまとめられないか。つまり、住まいない理由は何かという特定である。
  - （事務局）再度企業アンケートを整理し、反映を検討したい。

・（委員）今ある町の資源というのは、特産品のほかには何かあるか。
  - （事務局）自然と伝統産業以外にも、南関町の重要な資源としては、個人的な印象では人だと思っている。ワークショップにたくさんの人が集まり、議論に協力的であることに加え、委員会でもこれほど多くの意見が出るのも珍しい。構想の実現にハード整備をと意見する人も理解するが、今いる町民などの人をどうにか活用したい。
  - （委員）人材も重要な資源である。ほかには竹林・竹材がこの地域の特性である。保全と活用を念頭に置いた活動ができればよい。

・（委員長）資料については、南関版コンパクトシティはこうあるべき、という説明がほしい。施策一覧における南関町の実例と他市町の事例が明確になるように写真を再配置してもらいたい。また、画像が粗いので精査していただきたい。

・（委員）住んでよかったプロジェクトの推進は、色々な取組みに当てはまるのでは
  - （事務局）最も結びつきの高いところに表記しているが、見せ方は再検討する。

・（委員）全体構想としての方向性がわかりづらい。
  - （事務局）4市との連携、及び町内連携の2つが将来像である。図としては左右が逆の方がわかりやすいかもしれない。報告書はA4になるので、見やすさや伝え方は再度調整する。

● 地区別構想（案）・実現化に向けて

・（委員）将来像は第一校区住民に共感されるだろうか。
  - （事務局）将来像のベースはすべてワークショップから持ってきている。各校区

のキーワード等は、他校区に当てはまるところもあると思うが、ワークショップで校区の魅力としてピックアップされたものを引用している。

・（委員）「拠点」とは具体的な場所か、組織か、それともイメージか。
  - （事務局）第一校区の場合、役場周辺からうから館も含めた面的なものとなっている。他校区では点になっているところもある。

・（委員）地区別構想にも「まちづくり」という言葉が使われているが、まちづくりは全体的な取組みという印象がある。表記を工夫してほしい。
  - （事務局）校区づくりや地域づくりはどうか。表記の仕方は再検討する。

・（委員）校区別の現況について、無職の割合がワーストという表記を変更してほしい。
  - （事務局）そもそも掲載する必要があるというところから見直しをするが、アンケートは高齢者の回答者が多いゆえの結果でもある。なお、リタイアした高齢者は地域になじんでおり、協働のまちづくりの担い手にもなりえるので、高齢者が多いことは決して悪いことではないと捉えている。

・（委員）地図の凡例に抜けもれがありそう。また、早期実現先導事業に位置付けられた ICT の充実は、大半の中長期推進事業に影響があると思うので、強く打ち出せるとよい。

・（委員）早期実現先導事業と中長期推進事業の具体的な内容これから決めるということでよいか。
  - （事務局）先導事業のうち、モデル地区については次回提示する。その他は本構想ではこのレベルに留め、次年度以降の検討とする。
  - 元々が施策 1 つ 1 つの具体性の検討ではなく、全体の方針の設定に留める想定であった。

・（委員）うから館は今後どうなるのか、また、町民の関わり方がイメージしづらい。
  - （委員）連携のためのコーディネートを誰が担うのかが重要である。「各校区 1 つの魅力」というのは、「まずは 1 つ目を」ということか。趣旨を補足した方がよい。数字や漢数字の使い分けなどは精査いただきたい。
  - （事務局）うから館を含むモデル地区の報告は次回委員会で行う。地区別構想と実現化に向けての間に挿入するイメージである。推進体制には各自の役割を記載しており、まち協というのは事務局でもまだ組織イメージが固まっていない。今後、ワークショップ番外編を通じてプロジェクトを動かそうとしている。魅力づくりは「まずは 1 つ目」の考え方で相違ない。
  - （事務局）「まずは」などの言葉を補足する。コーディネートは、当初は行政からの働きかけとなるが、プレイヤーとなる人材は町民になると思う。校区にこだわらず、やりたい人や団体を応援できる仕組みとしたい。今からやり方などを検討するところである。
  - （委員長）まだまち協がないなら外す。今後設立の検討を行うのであれば、本文で補足するのがよいかと思う。

・（委員）ワークショップの意見で「行政主導のイベントばかり」とあるが、住民や民間発のものもあるので、事実でないことは省いた方がよいのではないか。

- （委員長）語った人がそういう印象を持っているのであれば記載するべき。ただし、「意見」と強調するのがよいと思う。校区の通信簿について、F 軸の注釈を追加してほしい。また、ワークショップにはたくさんの人に来ていただけたので、参加者数を大きく載せて欲しい。モデル地区編の人数を記載してほしい。
- （コンサル）参加者の 1 つの意見として記載を残している。その他修正は対応する。

3. 次回の日程について

・（事務局）第 3 回はモデル地区編の報告とし、2 月 21 日～25 日の開催で日時調整を行う。

4. 閉会

以上